

タイ・ビルマにおける女性の 剃髪者について

永崎 亮 寛

今日、タイ・ビルマの仏教教団が比丘・沙弥・在家信者とによつて形成されていることは、周知の如くであるが、さらに、女性の剃髪者のグループがこれに加えられていることはあまり知られていない。彼女達は、タイにおいては白衣を纏い、「メーチー」と、ビルマにおいては薄い桃色の衣を纏い、「テイラシン」等と呼ばれ、世俗の生活を遮断し、僧院の一角や離れた場所にて独自の生活を営んでいる。彼女達について、平川博士は

「現在、南方仏教には比丘尼僧伽は存在しない。しかし沙弥尼は存在するようである。彼女らは出家をなし、沙弥尼の十戒を受けているのであろうが、しかし授戒師としての比丘尼が存在しないのであるから、比丘から戒を受けて沙弥尼となるのであろう。」¹

と、また、藤吉氏は

「釈尊の生存していたころは比丘尼も存在していて、教養ある比丘尼もいたが、その後、今日のテーラバーダ仏教界には、どの国にも存在しない。ただ比丘尼と間違えられるのは、タイ語でメエーチー、ビルマ語でテイラシンまたはメティラと呼ばれる一群の女子修道者である。かの女らは比丘と同じように剃髪し、黄衣の代わりにタイ国では白衣、ビルマでは桃色の衣を着ている。寺院

の近くに居住し、なかには大きな修道場をもつて、自主的な宗教活動をしているところもある。かの女たちは、在家のための戒である五戒や八戒を守っている。ビルマでは十戒を守る者もいるので、沙弥の女性形、沙弥尼であるとみる事ができよう。」

と、述べている。すなはち、両氏とも彼女達の保持している戒律の点から「沙弥尼であろう」と受け止めている。私もこの意見には賛成であるが、両国の仏教僧伽は、藤吉氏の記述からも窺うことができるが、異なつた見解を示している。すなはち、「あくまでも最も熱心な女性の仏教信者」と断言している。しかし、彼女達の保持している戒律をみた場合、一概に彼女達を優婆夷とは受け取り難いのである。両国の仏教僧伽が前述したような見解を示すには戒律以外に色々な要素が含まれていると考えるが、両国の仏教は戒律仏教とも云われ、戒律を重要視していることは、周知の如くである。然るに、彼女達が保持している戒律だけを取り挙げてみた場合、彼女達を優婆夷と受け取れるかどうか、沙弥・沙弥尼の十戒と在家信者の五戒、さらには八斎戒とを用いて比較し、考察してみる。

まず彼女達が剃髪し、一切の世俗の生活を捨て、白や薄い桃色の衣を纏うことを、沙弥同様に、「パッパジャ」と呼び、一人の授戒者、または授戒者を含んだ数名の比丘僧伽の御前で三帰八戒を受けて出家するのである。すなはち、彼女達は出家者と受け取られている。さらに、この中、八戒とは、両国ともに組み合わせ方に相違点はあるが、内容は同じである。タイにおける八戒を示すと

1. Paṇṭipāṭa veramaṇi sikkhapadam samādiyāmi.
2. Adinnādāna pe
3. Abrahmacariyā pe

4. Musāvāda pe
 5. Surāmerayaṃajapamāḍaṭṭhāna pe
 6. Vīkālabhojāna pe
 7. Naccagītavādīnavisukadassanamaḷagandhavilepanadhāraṇa-
maṇḍanaṃvibhāsanaṭṭhāna pe
 8. Uccāsayanamahāsayaṃajātārūparajapāṭiṅgaṇā ... pe ...
とびある。これは『Khuddhakapāṭha』に記されている沙弥・沙弥
尼の十戒の内容とまったく同じである。ただ、十戒の第七条と第八
条・第九条と第十条とが一つにまとめられて八戒とされただけであ
る。これに対して、ビルマにおける八戒は十戒の第十条を取り除か
れただけで後は同じである。これは、後にもふれるが、在家信者が
布薩会の時に守る八斎戒の内容とまったく同じものである。
- 次に、在家信者の五戒とこの八戒の中の前五戒とを比較してみ
る。ここで重要な点は、云うまでもなく第三条である。然るに、第
三条は、出家者ならば *Abrammacariya* で、在家信者ならば *Kāmesu
micchacāra* であることは、周知の如くである。故に、両国の仏教
僧伽が示しているように彼女達を優婆夷とみるならば、この第三条
は *Kāmesu micchacāra* であればよいわけであるが、前述したよう
に、彼女達は生涯 *Abrammacariya* を守っているのであるから優婆
夷とは受け取り難い。
- 次に、八斎戒と比較してみる。これは、前述したようにビルマに
おける八戒とまったく同じであるが、八斎戒とは、平川博士が
「これら八戒を一日一夜受持するのが八斎戒、すなはち『八支具
足の布薩』である。この日は悪不善の行為をつつしみ、性行を遠
ざけ、断食し、娯楽物やぜいたくを離れ出家者に準ずる修行をす
るのである。」

と、述べているように、在家信者が布薩の日、一日だけ守る戒律で
あつて、その戒体は一日一夜にして消滅する。然るに、ビルマにお
ける八戒がこの八斎戒と内容等同じであつても彼女達は剃髪をし、
一切の世俗の生活を捨て、生涯この八戒を保持しているのであるか
らその戒体は一日一夜にして消滅せず、彼女達が出家している間存
続する。故に、これをも八斎戒とは受け取り難い。

以上、今日、タイ・ビルマの僧院等で見受けられる女性の剃髪者
について両国の僧伽が示している見解、すなはち、最も熱心な女性
の在家信者（優婆夷）であると云う見解について、戒律を最重要視
する両国にて現在用いられている沙弥等の十戒・在家信者の五戒・
八斎戒と彼女達の八戒とを比較した結果、その内容等は沙弥達の十
戒とまったく同じものである。さらに、彼女達は出家者と受け取ら
れ、剃髪をもし、世俗の生活を離れ、一般社会とは異なつた独自の
生活を営んでいると云う点から見ても、彼女達が優婆夷とは断言で
きないであろう。むしろ、沙弥尼と受け取ることができないだろう
か。

- 1 平川彰著『原始仏教の研究』頁四四九以下。
- 2 藤吉慈海著『東南アジアの仏教』第四章タイの仏教 頁一七
三以下。
- 3 II. *Dasatikkhapadam* p. 1.
- 4 平川彰著『原始仏教の研究』頁四二一。
(高野山大学助手)